

# 柳田雑記 (22) 2018年6月16日

## 私と革命運動とのかかわり。

私と革命運動との関わりは高校時代に始まる。当時私は阪神間の富裕層の師弟が通う甲南高校に通っていた。この学校の人文科学研究部にはいていた。

これは当時左翼の学生組織「社研」の名称をさけた結果つけられた名称だった。

当時この高校の社会科には相馬、藤田、畑井、という京大出の教師がいた。一番の年長者が相馬先生だった。私達はよく相馬先生の自宅に集まって歓談した。

私は彼に深く影響を受けた。畑井先生は社会科の授業で、唯物史観を説明し、黒板いっぱいにかきなぐった黒板をチョークでたたきつけ、これが唯物史観です。といった。

マルクス主義を知ったのもこの頃だ。『賃労働と資本』、『共産党宣言』、『フランスの内乱』、レーニンの『帝国主義論』等を読んだ。

そしてレオ・ヒューバーマンの『資本主義経済の歩み』(岩波書店)。ポール・エム・スウィージーの『歴史としての現代』を読んだ。

この頃京都で旭ヶ丘高校事件があった。北小路教師が授業が赤いということで解雇された。

かの中核派リーダー北小路敏のお父さんである。これを甲南高校の新聞部が取材した。相馬先生が手を入れて表現を柔らかくしたて掲載した。

私の政治運動への関わりは歌声運動である。

何がきっかけか、思い出せない。湊川高校のお幸のいえによくいった。お幸は母子家庭で父親は戦前の共産党員で、特高に殺された。ここで何人かの高校生と知り合った。彼らとともに「高校生の集い」が結成された。

歌とフォークダンスが行われた。毎回100人位集まった。

これに参加した高校生は神戸高校、兵庫高校、夢の代高校、兵庫工業高校等多彩だった。

これらの動きを指導したのは、高教組の指導部の吉富先生、福地浩三先生等だった。福地浩三はのちに湊川高校の高校生の姿を『吼えろ落第生』という本で書いて有名になる。

当時日本共産党は50年武装闘争に破れ、半地下活動をしていた。

当時の甲南高校の英語教師の桑原先生にたのまれ、私の家を彼らの会議場所に提供したことがある。桑原先生は隠れ党員だったのちに立命館大学の教授(現理事長)となる長田豊臣と知りあったのもこの高校生の集いである。

砂川基地拡張反対闘争があった。この飛行機をベトナムへとばすなとスローガンをかかげて砂川闘争は激しく戦われた。多くの学生が参加していた。雑誌『世界』にそのようすが掲載され、私はそれを夢中で読んだ。全学連の名を知ったのはこのときである。

今東京、大阪で弁護士事務所をひらいている諸石光熙弁護士もこのころの仲間であった。

彼は甲南高校の優等生で現役で東大に入学して、弁護士となった。

私は高校生運動に熱中し二浪するはめとなった。

なにかの受験生向けの本で大阪市大が赤い大学と紹介されていたので大阪市大にはいった。入学して私は真っ先に共産党市大支部の部屋を訪ねた。部屋には天井から大きな赤旗が垂れ下がって居た。しかし誰もいなかった。

私は市大経済学部の執行委員に入学後、2週間でなった。そしてすぐに「資本主義研究会」にはいった。ここでのちに全学連中執となる武田信照君と出会う事になる。彼は新聞会の理論家としてみんなから尊敬されていた。

大阪市大には私の期待どおり、多くのマルクス主義講座があった。私は大いに満足だった。甲南高校から東大に入った山前君にそれを話した。入学した大学が気に入るなんて結構な事じゃないかといわれたことを覚えている。1956年、スターリンのソ連内部の政治を批判した「フルシチョフ秘密報告」が報道された。1958年11月ハンガリー事件がおこる。当初ソ連側が報じるアメリカの陰謀による反革命だと「赤旗」が報じた。学生党員はこれ信じてソ連の行動を擁護した。ために彼らは全く孤立した。時が経つにつれ、事実がわかってきた。ながらくソ連に抑圧されてきたハンガリー人民が蜂起してナジ政権を打ち立てた。これをソ連が認めず多数の戦車隊を繰り出して弾圧した。ブダペストの街中でこれを目撃した、英国共産党機関紙記者ピーターフライヤーは「私は悲しかった」とその書、『ハンガリー革命の悲劇』でのべている。それまで左翼にとってソ連、スターリンは絶対的な存在だった。この時からスターリン主義批判がはじまった。日本共産党はスターリン主義を批判する、学生党員を多数除名する

この時除名された学生党員を中心に共産主義者同盟(ブント)が結成された。ブントの理論的中心は姫岡玲治(青木昌彦)、だった。1958年 社会主義学生同盟が結成される。全学連唐牛健太郎委員長が大阪市大にオルグにやってきた。そして私に武田、他に2, 3人がブントに加盟した。唐牛は彼独特の角バツタ字で、共産主義者同盟大阪市大支部結成と半紙に書き壁に張り付けた。

姫岡玲治(青木昌彦)も何度かORGIにやってきた。1959年11月27日 総評を中心とする安保改正阻止闘争があり、全学連を始め多くの労働者部隊が国会内になだれ込んだ。夜間になって、多くのライトがデモ隊を照らし、革命前夜のような光景となった。

1960年1月15日岸内閣総理大臣の訪米阻止闘争が羽田で行われた。参加者全員70余名が逮捕された。唐牛委員長、東大生樺美智子、下土井東京女子大委員長、当時神戸大学生だった私の弟もパクラれた。

この年の5月にも総評を中心とする国会闘争があった。1960年6月15日総評、全学連等による国会闘争が行われた。く当時唐牛健太郎委員長を筆頭に在京の執行部の逮捕が相次ぎ、それを補うため北小路敏副委員長をはじめ地方の中央委員数名が上京していたが、武田信照中執もその1人であった。当日明治、中央、東大駒場など戦闘力の強い大学のグループを北小路が指揮し、女子大を含む他の大学のグループを武田が指揮していた。国会構外を他の諸団体と共に数回わたってデモを

した後、南通用門を巡る攻防が始まった。

通用門内に防御のためにバリケードとして並べられていた機動隊の車両にロープをかけて引き出そうとする学生に、機動隊は強力な放水を浴びせて撃退させようとする。武田は第一と第二の大学グループの中間に置かれた宣伝カー上からこの攻防を見ていたのであるが、引いては進むことを繰り返すこの攻防の北小路の指揮ぶりはなかなか鮮やかなものであった。結局車両は引き出されて南通用門は破られ、学生デモ隊は国会構内に入り抗議集会を開いた。

この抗議集会で吉本隆明が連帯と激励のスピーチを行った。

しかしその後機動隊が警棒を手で一斉に学生に襲いかかった。無防備の学生に抵抗する術はなかった。警棒によって頭に裂傷を負った学生は多い。武田は竿のような長い棒状のもので腹を突かれて頭から転落し、半ば失神状態の所を腕章を巻いた報道陣らしい数人に構外に連れ出されて逮捕を免れた。地上に衝突した頭部には、今なお鈍い麻痺感が残っている。

この機動隊の攻撃の際に、樺美智子さんが死亡した。慶應大学医学部で解剖され、臍臓に鈍器による圧迫出血があり、その後首を絞められての扼殺の可能性が大という鑑定書を検察が受け取らず、東大医学部に再鑑定を依頼した。検視もなしに人なだれにより圧迫死という鑑定書が出された。矛盾する双方の鑑定書は公表しないことで手がうたれたという。

世情では圧迫死が通説となっているが、真相は今も闇の中に放置されている。

この攻撃によって構外に押し出された学生には、もはや隊伍を組む余裕もなく、追い打ちをかける機動隊によって国会周辺からバラバラに退散させられた。>『季報唯物論研究』第133号武田論文より引用。

樺美智子虐殺抗議は学生運動のみならず、多くの人が抗議行動に参加した。国会は全学連が用意した「虐殺抗議」の大看板を先頭におおきなデモにかこまれた。それは安保を推進した岸内閣に向けられ、「岸を倒せ」の声となった。翌日の大阪市大の1000人ちかい虐殺抗議デモの隊列に1本の日の丸の旗が翻っていた。いかに幅広い層の学生が樺さん虐殺にいきどうっていたかを示すものだった

6月18日岸内閣は倒れた。

.....  
安保闘争は若い多くの活動家に担われた。京大は59年入学組が多数居た。渥美文夫、新開純也、三宅宗明等で得ある。大阪市大は60年入学が多数いた。藤本昌昭、八木、芹生琢也、加藤勝美、島、山下五郎等である。同志社は浅川清、藤野興一、蒲池裕治、三木等である。

山下は医師となって尼崎に診療所を開き、周辺の住民に慕われた。

6. 15が終わり、6. 18が終わる。運動は波が引くように小さくなっていった。

この年の夏休み、我々は帰郷運動を行った。安保改定を説明した。樺美智子のお母さんに彼女の生い立ちを語ってもらった。

安保闘争で育った若い活動家集団は大きな遺産となって、後の沈滞期の運動、70年の高揚を支える力となる。

60年から70年の間に田宮高磨、戸梶博夫等が大阪市大に入学した。

京大には八木健彦、片岡卓三、吉國恒雄等が入学する。吉國は後にアフリカ・ジンバブエ大学の教員となる。

大阪市大の全学自治会選挙がおこなわれた。これまで経済学部が中心で全学的には少数派であったブント派が日共構造改革派に勝利した。

私は小野義彦ゼミに入った。小野義彦は日共構造改革派で従属自立論争の自立派の論客として著名だった。しかし、イタリア共産党トリアッチ派だった。ゼミでは私と小野義彦との論争となった。構造改革では革命はできない、武装闘争の必要性についてだった。ゼミが終わると彼は椅子に座って大きなため息をついた。

小野義彦から、彼が京大に入ったときの話を聞いた。京大事件のあった昭和8年(1933年)、構内に処分者の張り紙が多数張られていたとのこと。

彼は私の結婚式にきてくれた。私を大変な論客だといった。八木が挨拶で小野義彦を打倒すると演説した。

.....

### 労働運動について

私達、学生運動で知り合いとなった者は卒業後、芦屋にマンションを建てた。

全電通労働者前田裕悟氏を軸に私、藤野興一(同志社)、中島鎮夫、(同志社)、伊藤文昭(大阪西部労働者)等が中心だった。京阪神の多くの活動家がここに入出入した。闘争のあるたびに権力はここの近くに車を止めて双眼鏡で見張った。

学生運動を戦ったものは卒業後就職した企業で組合運動をやった。労働組合の書記になったものもある。同志社の藤野興一、福富健、大塚彰は全電通の書記となった。市大の芹生も全電通の書記となった。市大の大森昌也は国労の書記となった。

長崎の三菱造船の活動家集団「長船」(長崎造船社会主義研究会)はその指導者西村卓司氏と共に我々の憧れの存在だった。

関西の全電通労働組合の中央電報局の活動家集団の前田裕悟氏もそうだった。

我々はその思想的影響力を広めるため大阪に「労働者学園」を作り、藤本進治氏を学園長に頂いた。メーデーなど労働者の集会で募集ビラをまいた。1万枚に1人の割合で労働者が応募した。釜ヶ崎の新里良美氏、阪急電鉄の斉藤哲夫氏などが「労働者学園」に加入した労働者である。

1965年頃から、全国的に青年労働者の運動組織として反戦青年委員会が組織された。

大阪でも総評青年部が全大阪反戦を組織した。

これを下から支えるものとして「地区反戦」が組織された。全電通地方支部の書記に就職した同志社の藤野君は勢力的に地方支部参下の支部をまわって「地域反戦」を組織した。それに各地の大学を出たブントのメンバーが協力した。

私は堺地区反戦を全通労働者とつくった。常時2、30人の労働者が組織された。これに加わった、全電通、全通、国労等の青年労働者が参加した。

これら地区反戦をまとめて関西地区反戦連絡会議を組織した。事務局長は京大から尼崎地区にはいった清田祐一郎だった。北大阪反戦、堺反戦、西大阪反戦、尼崎反戦、吹田反戦がブント系反戦で関西地区反戦の多数派を形成した。

この反戦青年委員会の闘争の中で、新しい青年労働者を組織していった。堺反戦の森岡君等がその典型である。堺反戦の吉田金太郎君は日立造船の労働者だった。彼はのちに「よど号」ハイジャックに加わり、北朝鮮で病死した。

.....  
1967年10. 8佐藤首相訪米反対闘争で羽田に向かう穴堀橋で京大の山崎博昭君が殺された。  
67年11, 12羽田闘争が戦われた。

68年関西ブントは単独で御堂筋デモを行った。京都から京大、同志社他京都勢が大阪市大杉本町キャンパスにバスでのりつけ、大阪勢と合流した。そこから地下鉄を占拠して御堂筋本町に現れた。ゲバ棒で武装した赤ヘルのデモ隊は機動隊を蹴散らし、南海電鉄難波駅を占拠した。ゲバ棒が夕陽に映えて美しかったと人民新聞は書いた。同志社の望月上史 が総指揮者だった。大阪市大は西浦隆男が指揮者だった。

この年の秋、東京で反戦集会が行われた。圧倒的な白ヘルに驚いた。デモに入り、十数列の先頭のゲバ棒部隊が阻止線をはる機動隊を一瞬にして蹴散らした。デモ隊は威風堂々と明治公園に入場した。

60年台後半、全国の医学部で学部生と研修医によって、全学連医学協や青医連が始めたインターン制度廃止を軸とした研修医の待遇改善が台頭した。その中心が東大医学部であった。東大当局はこれを認めず、紛糾した。そして東大全共闘が結成された。

東大全共闘議長は山本義隆だった。山本義隆のポケットにはノーベル賞をとれるぐらいの論文が2, 3本はいつているといわれていた。

東大全共闘は安田講堂を封鎖した。

69年1月18日、19日安田講堂は機動隊にとり囲まれた。放水車からは催涙水が放水された。

この時神田界限はデモに埋めつくされた。

一方日大では当局の不正経理に対する抗議行動に端を発して、日大全共闘が結成され秋田明大が議長となった。日大に全共闘のデモにたいして日大右翼学生が日本刀を持って襲いかかった。しかし鉄パイプで武装した日大全共闘のデモは右翼の攻撃を蹴散らした。

東大、日大を頂点とするバリエードストは全国の大学に拡大した。

塩見孝也等が武装蜂起を主張し始め、これを批判されると仏派にゲバルトをかけた。仏さんは重傷を負った。これは、塩見孝也、花園紀男、田宮高磨らによって行われた。7, 6事件である。

これはブントに分裂をもたらした。赤軍派の発生である。この時、東京を追われて帰阪していた田宮は私の所に来て自分をブントにオルグしたのは柳田さんだから、その責任をとって赤軍派に来て欲しいといった。

この年の秋、赤軍派は大菩薩峠で軍事訓練をする。が警察に捕捉され、全員が逮捕された。70年3月15日、塩見が逮捕された。彼はその後20年服役し、1989年に出所する。

.....  
ハイジャック闘争 1972年3月

3月末、「よど号」ハイジャック闘争がおこなわれた。福岡から東京に向かった「よど号」がハイジャックされた。「よど号」は日米韓阻止線を破って北朝鮮、平壤に向かった。私はこれは田宮がリーダーだとすぐにわかった。大菩薩峠事件等で多くの幹部が逮捕されたなかでこんなとができるのは、田宮以外はなかったからである。

京都の喫茶店には多くの学生が「よど号」の動向を見守り、無事、ピョンヤンに到着するとヤッタと歓声を上げた。

赤軍派が脱退して弱体化したブント指導部を強化するために関西のブント指導部が上京する。渥美派、仏派と組んでブント指導部を形成する。私は山下五郎、佐藤秋雄、田中正治らと軍事委員会を担当する。

70年の10. 21闘争はブントは数も少なく開発したタバコ爆弾はまともに爆発しなかった。火炎びんを運んだ芹生は車ごとパクラれた。

山下は後に、春日部市で障害者支援運動をおこし、障害者自らが作る手づくりの雑誌「わらじ」を刊行した。それは今も続けられ、毎月私のもとに送られてくる。

1972年5月奥平剛士、安田安之、岡本公三の3人はイスラエルのリッダ空港に降り立ち、イスラエル兵と銃撃戦をまじえた。この戦いはパレスチナをはじめ、イスラエルと戦う多くの人々に大きな感動をあたえた。

赤軍派はアラブにのびた。重信房子だ。

彼らはベイルートを拠点にベカン高原に展開してイスラエルと戦った。しかしイスラエルはベイルートを占拠した。

ベイルートを追われた、赤軍派は各地に散った。アフガニスタンで針灸師をしてひっそり暮らしていた城崎勉を米軍が拉致してアメリカに連れ去った。30年の刑を言いわたした。これは全くのでっちあげだった。彼はジャカルタの米大使館をロケット砲で攻撃したという罪で拘束された。

しかしその時彼はベイルートにいたのだ。

彼は18年服役して、釈放され、日本に送りかえされた。しかし日本の官憲は彼を逮捕した。これは全く不当な行為で、一事不才理の原則に反する。

2000年重信房子は密かに日本に帰り、活動中、高槻で逮捕された。20年の刑を食らった。

彼女が出所するまで生きて出迎えたい

重信の娘、重信メイが日本に帰ってきた。京都のカフェラテツィアで歓迎会が行われた。20人ぐらいが集まった。田川晴信が円山公園野外音楽堂で1000人規模の集会をやりたいといった。

その年の10月21日田川や新開達の努力で円山公園で反戦、反安保の集会が行われた。850人が集まった。

それ以降10, 21円山集会は毎年行われている。

2012年6月ライラ・ハリドが来日し、京大西部講堂で歓迎会が開かれた。70年初頭イスラエル機をハイジャックして、パレスチナの戦いをアピールした若く美しい女性闘士も、今や年を取って小太りのおばさんになっていた。彼女はリッダ闘争の3戦士の闘いを讃え、感謝した。

2015年12月12日、田宮高磨逝去20周年集会が大阪梅田、大阪駅前第2ビル6階大阪市大文化交流会館で開かれた。65人が集まり、集会は盛り上がり盛況だった。八王子医療刑務所がら、重信のメッセージが寄せられた。森本忠記がこれを読み上げた。

司会の戸梶はみんな年を取ったが、生きて重信房子を迎えようと呼びかけた。

私は今78歳。狭心症と前立腺がんを患っている。走ると胸がいたくなる。デモも後ろからゆっくり歩いてついていくのが関のやまだ。集会を自ら組織して走りまわることもおっくうだ。

ただ自分もかかわった、過去の闘争で今なお獄中に捕らえられている人達の救援活動は続けたい。

さしあたって城崎勉君の釈放だ。彼は「ジャカルタ」事件の実行者として、CIAに捕らえられ、米国

で18年間服役した。日本に送還されたところを警視庁に逮捕された。そして「ジャカルタ事件」で起訴されている。これはあまりにも不当な行為だ。

しかもこれは冤罪なのだ。「ジャカルタ事件」のあった1986年、かれはレバノンにおいてイスラエル軍と戦っていた。

「ジャカルタ事件」で逮捕され、18年間服役しているのである。一事不再理という規定が憲法にもある。これは日本の司法当局の過激派對策であり、不当な弾圧である。

全国の人権派の人々に呼びかける。城崎君救援に立ち上がってください。

2018年6月16日 柳田 健